

幼稚園では、その日の一日が重要視される。朝、子どもが幼稚園にきて午後帰るまでの時間は、幼児にとっては、一日の中でもっとも充実した時間である。この時間に、

幼児が自分の力を充分に発揮した喜びを感ずることができれば、幼児は一步、発達の階段をのぼったということができよう。それは、身長の伸びが毎日目には見えないが、一年たてばすばらしく伸びるように、毎日目にみえて変化することではないが、充実した毎日がつみ重なって、精神的な発達をしてゆくのである。もちろん、幼児にも、心の重くなるような体験もある。それは人間の生活にとって、避けることのできないものである。しかし、全体としてみるときに、自己を発揮できる生活が保証されていることが、幼児にとつては必要である。

幼稚園の一日は、この週の計画に、この月の、また、この一年間の計画によって動く。けれども、どんなによく計画されていても、幼児がこの一日を充実して過ごすことができれば、よい計画もその効力を発揮することができない。幼稚園の一日の生活の中には、

・子どもの姿がみえなければならない。
・子どもが、活動していなければならぬ。

——先生だけがみえたり、プログラムだけがみえたりするのではなく。

・幼稚園には、一学期も、二学期も、三学期も、連綿としてつづく遊びがある。これが幼児の発達にとつて、思いのほか重要である。戸外の運動、砂場のおそび、つきあそび、ままごと、ごっこ遊びなど。その内容は一学期から三学期へと、より豊富になってゆくが、子どもたちが自分たちでやりはじめ、自分たちで展開してゆく活動である。その中には、先生がやたらに立ちいらぬ方がよい場合も多いが、これをただ子どもの自由に放置するのではなく、大きな計画の中にいれて、考えることが必要である。

そして、充実した一日のためには、教師の側に、一年間の抱負と、年間の見通しと、具体的な準備とを欠くことはできない。

本号は、「幼稚園の一日」が大半を占めている。幼児の幼稚園における一日の生活のもち方について、ご研究を乞う次第である。

(下)

幼児の教育 第六十四巻 第六号

六月号 © 定価六〇円

昭和四十年五月二十五日 印刷
昭和四十年六月 一日 発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館
振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレイベル館にお願いいたします。